

## (3) 高等部一般学級の取組

### (1) 取組の概要

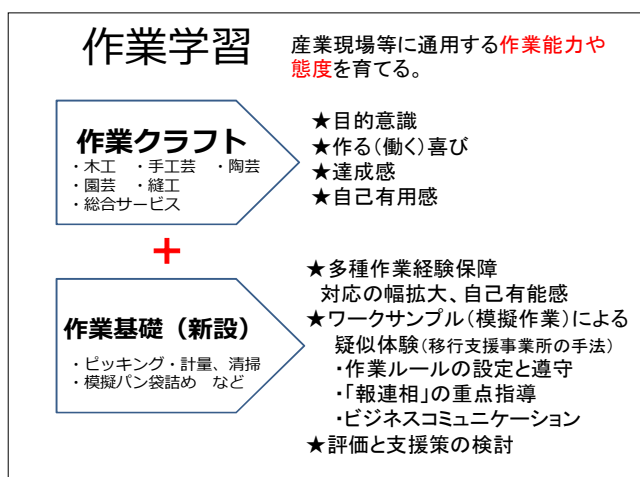
高等部一般学級では、平成25年度までの研究で、作業学習の意義について再考し、「働く力の原点となる部分の重要性」を各作業班の共通認識としました。そこで、平成28年度までの研究では、前研究の成果と課題を踏まえて、作業学習のねらい及び内容の整理を行い、キャリア教育の視点を踏まえた6年間の取組の総括に向けて「指導方法の蓄積」、「作業基礎としての指導方法及び評価方法の改善」、「進路別グループによる授業づくり」の3点に重点を置いて作業学習の授業改善に取り組みました。また、実際に働く生活を想定した具体的な適応能力を身に付けるために、作業学習や教科別の指導等、教育活動全体の指導目標及び学習計画、学習内容等を網羅する授業づくりにおける包括的プログラムであるKスタイルを作成し、教育課程に伴う授業づくりに取り組みました。

作業学習に関しては、社会で求められる職業スキルや基礎的な作業態度等について重点的・効果的に学ぶことができるよう、「作業基礎」の見直しを行いました。昨年度のKスタイルの中の一つのツールとして作成した作業基礎の作業内容指示書を発展させ、「育てたい力」一覧表との関連を明確にし、より個々の生徒に応じた学習内容となるよう、進路希望先など生徒の教育的ニーズに対応できる指導案の作成を行いました。また、現場実習での外部評価や生徒の評価シートをもとに、作業評価シートの見直しや作業評価基準の作成など、Kスタイルを基にした授業改善を行いました。

### (2) 取組の内容

#### ア Plan (計画)

前研究により、高等部一般学級における作業学習の意義について「個々の生徒に応じた明確な目標設定をし、丁寧な振り返り、成功体験の積み重ねによって、生徒一人一人の自己有用感や自己肯定感を高めることができるような作業学習」とし、作業学習を働く力の原点であることを共通理解しました。それを受け、現行の作業内容が実際の進路先のニーズと合致しているか、作業に関わる基礎的な内容を捉えているか、社会で生かされる力を習得できているか、などの学習内容の整理と作業学習の再構築を行いました。そこで、具体的な取組として、従来の木工・手工芸・陶芸・園芸・縫工から1項目を選択する「作業クラフト」に、ピッキング、計量、清掃、模擬パン袋詰めなどの作業をローテーションで回す「作業基礎」の項目を新設し、産業の現場において通用する作業能力や態度を育てることとし、目的意識、作る（働く）喜び、達成感、自己有用感に加え、多種多様な経験保障（対応の幅拡大・自己有能感）、模擬作業による擬似体験（作業ルールの設定と遵守・「報連相」の重点指導、ビジネスコミュニケーションの重点指導、ビジネスコミュニケーション



ン) といった力の育成を目指すと同時に、生徒に対する評価方法と支援方法の検討という指導に関する改善を行いました。

作業基礎の目的は、実社会につなぐ視点で様々な作業体験の機会をつくること、教科「職業」との深い連携を図り、社会で求められる職業スキルについて重点的に学ぶ機会を設けました。作業内容は、実際の就労先での作業内容から職種に応じて必要な力及び全作業種で共通して必要な力を洗い出し、それらの力を網羅しつつ、授業の中で比較的導入しやすい7種目を編成しました。

種目名	作業内容
パン製造	パンの袋詰め、ラッピング、シール貼り等の模擬的作業
組立・分解	ボールペン、ボルトナットの組立分解及び割り箸セット等
計量・袋詰め	様々な材料の計量・袋詰め
ピッキング	指示書（発注書）に対応した部品揃え・検品
エコ紙折り	指示図をもとにしたエコゴミ入れ折り作業はさみ等の使用
園芸	園芸作業全般
清掃	基本的清掃用具の基礎・実践

作業基礎の班編成は、1年生は実態把握期として学級単位で班編成し、2,3年生は卒業後の進路希望別(A：生活介護系、B：就労継続支援B型系、C：就労継続支援A型・一般雇用系)としました。在籍生徒65人に対して8つの作業内容によるローテーションを組みました。また、清掃班は、2,3年生の一般就労希望者を対象に編成しました。

学年・班	前期				後期	
	期間1 (4月)	期間2 (4月)	期間3 (6~7月)	期間4 (7月)	期間5 (11月)	期間6 (1月)
1年1組	エコ紙折	パン	園芸	計量袋詰		ピッキング
1年2組	計量袋詰	エコ紙折	園芸	パン		組立分解
2年A	パン	計量袋詰	エコ紙折	組立分解		エコ紙折
2年B	ピッキング	園芸	計量袋詰	組立分解		パン
2年C	組立分解	園芸	ピッキング	園芸		計量袋詰
3年A	エコ紙折	計量袋詰	パン	ピッキング	組立分解	
3年B	園芸	ピッキング	組立分解	計量袋詰	エコ紙折	
3年C	園芸	組立分解	エコ紙折	園芸	ピッキング	
清掃班	清掃	清掃	清掃	清掃	清掃	清掃

#### イ D○(実践)

作業基礎の導入では、作業基礎の目的、作業スキルの説明、仕事に必要な力、ビジネスマナーおよびコミュニケーション（挨拶、返事、適切な言葉遣い、立ち居振る舞い等）を題材とした意識付けの授業を行いました。その後、各作業種の担当者が事前に作成した指導略案や作業遂行指示書などの必要な実施計画案に基づいて授業を実施しました。作業終了時には作業基礎評価シートを用いて、生徒による自己評価および教師による評価を行いました。各作業期間の最終回には、「ビジネスマナー&コミュニケーション」を題材にし

て、作業の振り返りと教師からの返しを行い、課題と評価のポイントを整理し、次の作業へつなげました。

## ウ Check (評価)

作業基礎の取組に関する評価は、主に教師による振り返りと外部評価により行いました。教師による振り返りにおいては、主なものとして以下のような意見が挙がりました。

### 【教師による振り返り、主に学習計画・内容について】

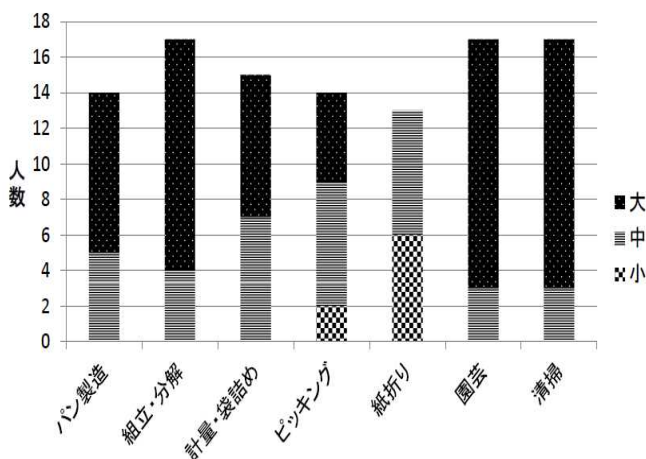
- ・作業遂行指導書が指導案になっていたため、生徒に身に付けてほしい力を意識しながら言葉掛けすることができた。
- ・評価シートは生徒の実態に合わせて数種類あると良いと感じた。
- ・共通の振り返りシートがあることで、作業内容が変わっても課題等の反省がしやすかった。
- ・Aグループは生徒の実態に幅があるため、いくつかのパターンを事前に考え、5段階くらいの内容で実施することを検討する必要がある。

### 【就労支援の専門家による評価で、実際の現場での取組と比べてどうか】

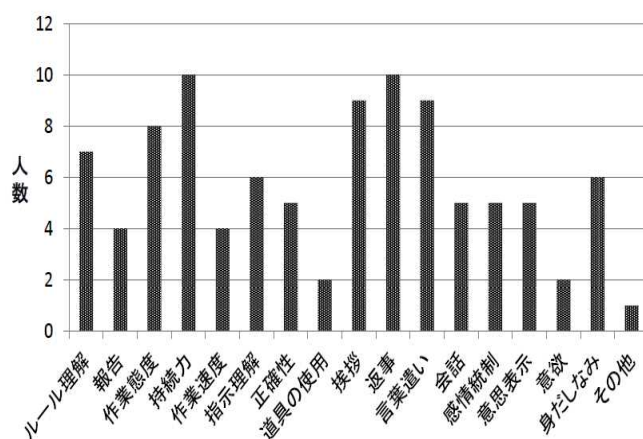
- ・よく準備されていて興味深い。
- ・指導体制が潤沢でうらやましい。
- ・作業種ごとに教師複数名で期待する速度の標準（標準速度）を設定すると良い。
- ・就労を目指す企業に対応した模擬作業の開発と、数値化・標準化による、見える化を工夫し、情報提供書（学校でいえば実習個人票）に活かすことができたら良い。

また、生徒の現場実習後に作業基礎に携わった教師に対してアンケート調査を行い、実習との関連度及び今後の作業基礎で重点指導が必要な内容について検討しました。下記の「現場実習と作業基礎授業の関連度」、「重点的な指導が必要な内容」のアンケート結果から、現場実習と作業基礎の授業の関連度は、「大・中・小」のそれぞれの教師の感じ方で回答しており、重点的な指導が必要な内容は該当箇所の重複回答を認めていました。特に、パン製造、組立・分解、計量袋詰め、園芸、清掃では、作業基礎での作業が現場実習との関連度が大きいという回答が多数得られました。また、作業態度、持続力、挨拶、返事、言葉遣いでは今後より工夫した指導が必要であることが示されました。

現場実習との関連度



重点的な指導が必要な内容



## エ Action (改善)

作業基礎におけるPDCAサイクル具現化のために、実行(D o)および評価(C h e c k)の内容を踏まえて、作業種ごとに担当教師が集まり、改善点を挙げました。また、評価シートの重要性を再度認識し、数値化・見える化を意識して作業基礎評価シートを改善しました。改善前はコミュニケーション面、生活面、技術面の3つの観点で構成されていたものを、改善後は振り返りの観点を追加し、作業基礎基準表を基にスピードと正確性を数値化して記入できるようにしました。作業基礎基準表は複数の職員が実際に作業を行い、5段階に適切に評価できるように話し合って作成しました。また、道具の使い方を確認するために、作業種ごとに使用する道具とその技術を1枚にまとめたチェック表を新たに導入し、生徒ができるようになった項目について○印を付けるようにしました。これにより、作業に携わる本人の道具の使用法に関する達成度が客観的に把握できるようになりました。また、生徒に対して「振り返りシート」を新たに導入することにより、各作業期間の自己評価を振り返ることが可能になり、自分の課題を明確に捉え、その課題に対する取組の自己分析ができるようになりました。

作業基礎評価シート 作業名( ) ( 月 日 曜日)

( ) 年 ( ) 組		氏名 ( )	
作業内容 ( )			
作業目標 ( )			
作業基準目標 ( )			
内容		←むずかしい 自己評価 できた→	指導評価 (先生)
コミュニケーション面 (かきりあひ)	あいさつ、返事ができた。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	報告・連絡・相談ができた。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	適切な言葉づかいができた。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
生活面 (いぢたりひ)	時間を守ることができた。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	決められた服装ができた。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
技術面 (いぢたりひ)	指示通り作業ができた。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	集中して作業ができた。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	ペースを落とさず作業ができた。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
振り返り (きりのひ)	作業目標を達成できた。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
		スピード	
	作業基準を達成できた。	正確性	

今日の感想	
-------	--

○先生記入欄

--

## 道具の使い方チェック表

名前( )

東種名	道具名(行標)	チェック項目	自己評価	担当評価
エコ紙折	はさみ(C)	安全に使用できる。		
		直線を意識して切ることができる。 直線に沿ってまっすぐ切ることができる。		
	のり(C)	指定された場所に塗ることができる。		
		指定された場所に、適切な量で塗ることができる。		
	封筒(A)	封筒の口を自分で開けることができる。		
	書類(A)	封筒に書類を入れることができる。		
封筒に書類を奥まで入れることができる。				
書類(B)	書類を折ることができる。			
	書類の角をあわせて折ることができる。			
瓶(B)	瓶を用いて折り目をきれいに付けることができる。			
計量・袋詰め	スプーン紙コップ	こぼさずに入れることができる。		
		コップを傾ける等、入れ易くする工夫ができる。		
		コップを使い易い位置に配置する。 基準となる目印まで入れることができる。 見本と同じようにビーズを入れることができる。		
	ビニール袋	ジッパーをしっかりと閉じることができる。 空気を抜くことができる。 指示された折り方ができる。		
スケール(C)	正しく計量できる。			
	風袋を差し引いて目盛りを0にリセットすることができる。 皿の適切な位置で計量することができる。			
	使用前に洗い、ふきんで拭くことができる。			
パン	トレー・トング	トレーを持ち、もう片方の手でトングを使い、パンをトレーにのせることができる。 トングを使って、パンをつかむことができる。 トレーにパンをのせて運ぶことができる。		
		中の空気を適度に抜くことができる。		
		袋の口を適度に回すことができる。 適切な位置でバックシーラー詰めをすることができる。 バックシーラーを使うことができる。		
	バックシーラー 詰め			
ピンセット	安全に管理・使用することができる。 ものを意図的につかんで離すことができる。			
細み立て分解	定規(C)	cmの単位を正確に計ることができる。		
		mmの単位を正確に計ることができる。 定規を正しく使用することができる。		
	ボルトナット(C)	ナットの向きを間違えずにボルトにつけることができる。 ナットをボルトにつけることができる。		
清掃	タオル	8つ折りにすることができる。 たてしぼりすることができる。(固くしぼる) たてしぼりすることができる。(水拭き用に軽くしぼる) 正しく持つことができる。(タオルのばらけている方を親指ではさむ。)		
		ふまのこしなく台をふくことができる。		
	バケツ	バケツの下から3分の1程度まで水を入れることができる。(半分より少し下)		
	自在ぼうき	安全な場所で毛先をハンドルにつけたり、はずしたりできる。 柄の先端を親指で押さえて持つことができる。 はく方向に合わせて、持ち手をかえることができる。(反時計回りに掃く場合は左手親指/時計回りに掃く場合は右手親指)		
	文化ちりとり	とりのこしなく、ゴミを文化ちりとりに入れることができる。 隙間をあげることなく縦方向に使うことができる。		
	ウインドスクイジー	横方向に使うことができる。 扇形に使うことができる。 ウインドスクイジーについて水滴を一度使うごとに拭き取ることができる。 窓に水滴がのこらないように拭くことができる。		

### (3) まとめと今後の予定

平成23年度から「キャリア教育の視点を踏まえた作業学習に関する再考」として6年間取り組みました。本取組により導入した作業基礎の授業によって、校外での実習および作業現場で特に必要とされるビジネスマナーおよびコミュニケーション力、生活態度、作業技術の面を育成することができました。また、評価シートの導入によって挙げられた諸能力がどれほど身に付いているかを客観的に把握できるようになりました。さらに、Kスタイルによって、教師間で学習内容や指導方法などを共有することができ、授業改善を話し合う際の共通ツールにすることができました。

今後は、作業学習に関しては、現場実習先および教師によるアンケート結果を踏まえ、課題および作業種の選定や進路先へのアプローチを行い、継続的に改善していく予定です。生徒が社会に出る際に必要なスキルは、時勢によって変化すると考えられます。その時、個に応じた職業スキルが習得できる学習を実践するため、今後もKスタイルを活用した授業実践・授業改善に努めていきます。